



神奈川県畜産会のホームページ

「かながわ畜産ひろば」[\[http://kanagawa.lin.gr.jp/index.htm\]](http://kanagawa.lin.gr.jp/index.htm)

神奈川畜産情報

隔月 1 回（1 日）発行

〔神奈川畜産情報（平成18年 1 月号以降）はホームページでもご覧になれます〕

発行所
神奈川県畜産会
横浜市磯子区西町14-3
畜産センター内
電話 045 (761) 4191
FAX 045 (759) 1162
発行人
長嶋 喜満

謹賀新年



（一社）神奈川県畜産会
会長 長嶋 喜満

平成三十年の新春を迎え
皆様のご健勝を心から
お慶び申しあげます。

これまで昨年の畜産会に対する皆様より寄せられましたご厚情に深く感謝し、本年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は、北朝鮮をめぐる安全保障問題やトランプ政権のアメリカファースト政策、国内においては、突然の衆議院の解散等、激動の年でありました。

また、環太平洋経済連携協定（TPP11）や欧州連合（EU）の経済連携協定（EPA）が大筋合意に至りました。国内農畜産業への影響が心配される新たな要因となっており、今後の動向を注視していくことが必要です。

このような中、畜産経営は非常に厳しい状況に置かれています。

乳牛につきましては、消費者の販売価格に対する反応が厳しい中で、更なる経営安定対策が不可欠であり、乳牛の改良増進や乳質改善にも、より一層取り組みが必要があります。一方で、神奈川県畜産ブランド推進協議会の酪農活性化委員会が進めていたかながわ県産生乳100%認証制度が三月に施行され、出口戦略として大きく前進し、成果が期待されます。

肉牛につきましては、素牛価格の高騰が経営を大きく圧迫しています。政府が打ち出した「和牛の生産拡大」がしっかりと進むよう動向を注視したいと思います。

養豚では、豚流行性下痢（PED）が県外で発生しておりますが、県内では、平成二十七年春（発生一戸）以降、発生なく推移しています。県行政と関係者の皆様の普段の防疫に対するご努力

の賜物と考えると、今後でも引き続き万全の防疫対策を講じて頂くようお願いいたします。

養鶏では、高病原性鳥インフルエンザウイルスについて、昨年十一月の環境省モニタリング検査以降、ウイルスは検出されていませんが、決して油断は出来ません。

養鶏農場は、既に万全の防疫体制を敷いていると思いますが、防鳥ネットの点検や、ネズミなど小動物の出入遮断と周辺の消毒など、再点検して頂くようお願いいたします。

畜産会といたしまして、この難局に向かい、県内畜産事業の一層の振興へ全力を上げて取り組んでまいり所存であります。皆様の変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成三十年の年頭にあたり、皆様のより一層のご活躍、ご発展並びにご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



神奈川県環境政策局農政畜産課
課長 石田 聡

明けましておめでとうござい

ます。皆様方には、輝かしい平成三十年の新春をさわやかに迎えの

こととお慶び申し上げます。

昨年は振り返りますと、環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の先行きが不透明な状況の中、EUとの経済連携協定（EPA）が最終合意し、近い将来に協定発効が現実的なものとなつてきました。また、2020 東京オリンピック・パラリンピックを再来年に迎え、多くのインバウンドが見込まれる中で、JGAP 等の食料調達基準が示されるなど、今後、畜産物を含めた食品の市場環境の大きな変化を予測させる年ではな

かったかと感じています。国内並びに県内畜産業の持続的発展のため、こうした変化を機敏に捉え、国産並びに県産畜産物を支持していただくよう、今後、畜産業界あ

げて的確な対応が求められるところ

です。

また、鳥インフルエンザについては、昨シーズンは猛威を振るい、

残念ながら国内での発生が続きました。今冬においても、国内の野

鳥で高病原性鳥インフルエンザウ

イルスが確認されており、一時も

気を許せない状況が続いております。

この場をお借りして、引き続き

万全の対策をお願い申し上げます。

さて、県では、県政運営の基本

となる「かながわブランドデザイン」

のプロジェクト「農林水産」に位置

付けている、かながわ畜産ブランド推進協議会の活動による「知名度向上や販路拡大（畜産物の

輸出戦略）」を積極的に推進し

ているところ

です。一八、五〇〇人の来場があつた横浜赤レンガ倉庫イベント広場で開催した「畜産

フードコレクション」、生産現場に飲食店等経営者を招いた「現地

商談会」、「かながわ鶏」の生産と販路拡大や「県産生乳100%

認証制度」の運用などの様々な取組が行われました。特に、若い後

継者を中心に構成された同協議会の幹事会ワーキンググループの活

動は、畜産に対する理解促進とPRを目的に、生産者と地域とのつな

がりやを視点に、小学生の牧場体験やトントンまつりの取組を

「かなチャンTV」で配信、県民（親子）と生産者が一緒に参加

した「料理教室」、今年の一月以降に実施する「SNS 講習会」や

県産畜産物を使った「インバウンド向け寿司教室」など、若い柔軟

な発想のもと、畜種の枠を超えて意欲的に取り組まれており、大

変感謝申し上げます。さらに活動の輪が広がることが期待して

おります。

これら出口戦略の一方、県内の畜産生産基盤の強化を図る取組と

新年のご挨拶



畜産技術センター所長
竹本 佳正

新年明けましておめでとうござ

います。皆様におかれましては

健康やかに新しい年をお迎えのこと

とお慶び申し上げます。

ことしの干支は戌、犬の年です。従順な犬の名前はボチ

今年

の干支は戌、犬の年です。犬は人の伴侶として家族の一員として暮らす親しみ深い動物でし

う。古くは財産や外敵から身を守る番犬として、狩りの手助けをす

る猟犬として人のために働く動物

でした。馬や牛のように車や轡を引いて運搬や移動作業にも使われ

る大型犬もいましたので、馬や牛と同じ家畜の仲間でした。

乳を搾ったり、その肉を食べたり

するために飼う動物が家畜ならば、現在の犬はそれを食べたり、

使役をさせたりしないので家畜の仲間ではありませぬ。特に近頃

は小型の愛玩用の犬が心のよりどころとして珍重され、家の中で暮

らしているの、我々畜産業者の言う家畜ではありません。

畜産業では牛馬豚の数を数える

女子ジャンプでも、伊藤有希及び高梨沙羅選手が非常にいい成績

を出しており、二月開催予定の平昌オリンピックを楽しむにしている

ところです。北朝鮮が度重なるミサイル発射を行っていますが、オ

リンピックに水を差すことのないよう願うばかりです。当所は米軍基地に近く、万が一を考えると、昨

年は避難訓練を実施いたしました。

県内では、伊勢原の酪農家らによる、伊勢原産牛乳を使った「い

せはら地ミルク」が販売され、都市農業としての地の利を生かした、

神奈川県らしい取り組みをスタートしています。既にご賞味いた

だいた方も多いかと思ひますが、見かけましたら、是非皆でお

いしく応援していきましょう。

さて、かながわの畜産を取り巻く環境ですが、担い手の減少、輸

入飼料価格の高騰、高い地価や環境対策など依然厳しい状況です。

そこで、神奈川県では生産コストの低減、環境対策、消費者ニ

ーズの把握、付加価値の創出、担い手の育成など直面する課題を解決

し、かながわの強みを活かした畜

産業の発展を図るべく、「畜産物の出口戦略の推進」「環境対策の

強化」「担い手の育成」を展開しております。

当所では、試験研究や普及指導の面からこれらの施策に取り組ん

でいるところです。

具体的には、酪農活性化対策として後継牛の確保に対し研究成果を活用し、経産採卵（OPU）を中心とした高度な畜産技術導入への支援、経営実態に即した後継牛確保計画の作成（プランニング）を実施しており、昨年はOPUにて四農場で六頭の雌産子を得ることができました。現在も多数の妊娠牛がおり、今後とも酪農家の希望にお応えしていきます。

また、生産者の皆様からご要望のありました「かながわ鶏」の配布についても体制が整い、昨年の配布は二千三百五十五羽実施しております。来年度はより多くの配布を計画しています。

また、県内畜産物ブランドを支援するために、県内ブランドの牛肉や豚肉の味について成分や食味等についても検討していきます。

さらに、県民の畜産物へのニーズに対し、アンケート調査や食味調査を通して県内の消費者ニーズの把握に努めてまいります。

環境対策では、排せつ物処理の低コスト化や家畜ふんから発生する悪臭物質を特定し、臭気発生の低減化を図る技術開発を進めてまいります。そして消費者に畜産への理解を深めていただくため、施設見学、体験学習や出前講座を推進してまいります。

当所で十月に開催した「家畜に親しむつどい」は、当日台風の影響により悪天候となり、午前中のみ開催と、開始以来一番の悪条件にもかかわらず、三百五十人もの方にご来場いただきました。例

年より一桁少ないものの、開催への問合せも多く、地域の方々に注目されていること、また県民の畜産への関心の高さを改めて認識することが出来ました。大消費地での畜産経営では、生産者と消費者の結びつきを進める地産地消とブランド化への期待が大きいのと思

われます。これに応えるべく、かながわの畜産を支えるため、研究部

に持つ一事だそう

と、同じ犬でも小型犬は「匹」大型犬は「頭」と数えるのか？秋田犬は「頭」で柴犬は「匹」となるのか？「お前のとこじゃ犬を幾つ飼ってる？」「二頭と三匹だよ」なんてことになるのか？どうも、この「抱き説」はしつくりし

ません。それに「抱く」とは男性が女性と情を交わす意味にも使います。となると、抱かれた女性

は一人ではなく一匹になっちゃうのか？小さくても大きくても鳥は一羽二羽と数えます。四つ脚の兎も一羽二羽です。箆（は）は、旗

や轍（は）は、大砲は一門、北朝鮮の弾道ミサイルは一基かな？いや一危だよ。一番危険だよ。世界中が危険な情勢になっています。日本が軍事で米のトランプのボチに

ならないようにと祈りたいです。

（忠九朗）

新むらすずめ



門と普及部門が連携して皆様の経営の支援に取り組んでまいりますので、より一層のご協力をお願い申し上げます。

貴会益々のご発展と、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

【平成二十九年畜産保健衛生業績発表会】開催のお知らせ

本県の畜産の現状に即した畜産保健衛生事業の改善向上に資することを目的に、畜産保健衛生所の職員が日常の業務で得た情報を取りまとめた発表する業績発表会が県畜産課主催により、次のとおり開催されます。

日時：平成三十年二月二日（金）・午前一〇時から

場所：海老名市文化会館小ホール
海老名市上郷四七六一二

内容：畜産保健衛生所の運営及び畜産保健衛生の企画、推進に関する業務や畜産の保健衛生

に関する試験、調査等
お問い合わせ先
県畜産課安全管理グループ
電話 045-1210-4518

【平成二十九年（第2四半期）九月販売牛及び（第3四半期）十月販売牛の補填金単価報告】

●平成二十九年第2四半期
九月販売牛補填金単価（精算額）
肉専用種 〇円
交雑種 七三、五〇〇円
乳用種 三九、二〇〇円

●補てん金交付日（精算払）
平成二十九年十一月二十七日

●平成二十九年第3四半期
十月販売牛補填金単価（概算額）
肉専用種 〇円
交雑種 六八、七〇〇円
乳用種 四二、一〇〇円

●補てん金交付日（概算払）
平成二十九年十二月二十五日

乳用種は昨年からの交雑種も七月から補填金交付が続いております。肉専用種についても生産費と粗収

益の差が僅かになってきています。販売報告はもとよりマルキン事業への個体登録漏れにはご注意ください。（経営指導部 倉迫）

【平成二十九年（第2四半期）九月販売牛及び（第3四半期）十月販売牛の補填金単価報告】

女性ネットワークでは、広く県内の畜産に携わる女性の会員を募集しています。

会では、①情報交換・情報の提供、②技術・経営研修会、③優良事例・関係機関等の視察、④行政・関係団体等との意見交換会等を年間の行事として実施しております。

これらの活動を通して個々の資質の向上を図り、経営の安定化に繋げ、神奈川の畜産をより立てていくこととしています。

会費は、年間五千円とし、家族で加入された場合でも一家族五千円としています。

都市畜産の安定経営の維持・振興には、女性のきめ細かい視点での経営が今まで以上に重要になってきています。多くの皆さんの参加をお待ちしています。（総務部）

地方競馬の収益金は畜産振興に役立っています。

川崎競馬開催日

30年1月29日(月)～2月2日(金) 昼間開催

30年2月26日(月)～3月2日(金) 昼間開催

技術情報

神奈川県飼料作物奨励品種の指定について

【県飼料作物奨励品種とは】

県では、自給飼料の生産拡大を図るため、畜産技術センターにおいて、県内の気候、風土、利用形態等に適する多収量で良質な飼料作物の品種比較試験を行っています。この結果をもとに作付奨励で

きる優良品種を選定し、神奈川県飼料作物奨励品種に定め、普及を図っています。

平成二十九年十二月に県内の栽培に適した収量性に優れる十草種三十五品種の飼料作物を指定しましたので、是非ご利用ください。

【栽培利用上の留意点】

奨励品種は耐病性、収量性等に優れ、本県の気候に適した品種で

すが、播種適期・適正栽植本数等を守ることによって、その品種の特性が最大限に発揮されます。病害虫の発生や倒伏は、品種の持つ抵抗性、生育上の栽培・環境条件等、これらの相互関係によって生じますので、ご留意の上ご利用ください。

草種、品種の特徴や栽培方法、収穫調整等の技術的なことに関するご相談は畜産技術センターまで、その他については県畜産課畜産振興グループまでお問い合わせください。

電話 046-1238-4056（代）
県畜産課畜産振興グループ
電話 045-1210-4511（直）
（畜産振興グループ 阪本雅紀）

【トウモロコシ】

品 種 名 (系統名)	RM	早晩生	耐倒 伏性	主 な 特 性	指定 年次
バイオニア 100 日 (P9400)	100	極早生	○	乾物収量が多い 二期作栽培の 1 作目に適する	H28
バイオニア 106 日 (36B08)	106	極早生	◎	アップライト草姿 乾物収量多い、根腐病に強い	H15
バイオニア 108 日 (34N84)	108	早生	○	乾物収量多い、 二期作栽培の 1 作目にも利用できる	H30 新
スノーデント 110 (LG3520)	110	早生	◎	乾物収量多い、 二期作栽培の 1 作目にも利用できる	H19
ロイヤルデント TX1241 (TX1241)	110	早生	○	乾物収量が多い	H28
スノーデント 115 (SH4681)	115	早生	○	乾物収量多い 雌穂割合が高い	H19
スノーデント 115 ボラリス (SM8446)	115	早生	◎	乾物収量多い 耐倒伏性に優れる	H26
バイオニア 115 日 (P1690)	115	早生	◎	乾物収量多い 耐倒伏性に優れる	H27
バイオニア 115 日 (P1543)	115	早生	◎	乾物収量多い 耐倒伏性に優れる	H27
NS115 スーパー (KE9601)	115	早生	◎	乾物収量多い 耐倒伏性に優れる	H27
ゴールドデント KD671 (KD671)	115	早生	◎	乾物収量多い 耐倒伏性に優れる	H30 新
バイオニア 118 日 (P2088)	118	早生	○	乾物収量が多い	H28
Z－CORN 118 (ZX4182)	118	早生	◎	乾物収量が多い 耐倒伏性に優れる	H29
ゴールドデント KD731 (KD731)	123	中生	○	乾物収量が多い 二期作栽培の 2 作目にも利用できる	H28
スノーデント 125 わかば (SH3815)	125	中生	◎	乾物収量多い 稈径太い	H21
バイオニア 135 日 (30D44)	135	晩生	△	乾物収量多い 二期作栽培の 2 作目に適する	H23

【イタリアンライグラス】

品 種 名	早晩生	利用型	主 な 特 性	指定 年次
タチワセ	早生	短期	直立型でアップライトリーフ 耐倒伏性極強、早春から生育旺盛で多収	H 元
ワセアオバ	早生	短期	直立型で草丈高く、耐倒伏性強 早春の生育旺盛、水田・畑地裏作に適する	S56
ワセユタカ	早生	短期	直立型、茎が太く、多葉で早春の収量性が高い 水田裏作に適する	S56
タチマサリ	早生	短期	直立型、草丈高い 耐倒伏性強、早春から生育旺盛で多収	H13
タチムシャ	中生	短期	直立型、草丈高く、早春から生育旺盛で多収 耐倒伏性やや良好	H13
マンモス イタリアン B	中晩生	中長期	偏直立型、耐倒伏性やや良好 初期生育旺盛	H13
エース	晩生	極長期	ややほふく型で茎太、草丈高く、茎葉が大きい 再生力が強い	S60

家保だより

「酪農基盤を支える」

日本人の主食であるお米や鶏卵と並んで、日本で生産される割合が高いのが牛乳・乳製品です。しかし現在最も深刻な課題は、生乳生産基盤の弱体化に歯止めがかからず生乳生産が減少が続いていることです。輸出国である国でさえ生乳生産量が頭打ちになっている

など、輸出に回る割合（世界的には10%にも満たない）は将来減る可能性があります。こうした世界情勢を考慮すると、国内における酪農の重要性は今後さらに増していく可能性が高いと言えます。

酪農基盤の課題は、「乳牛資源」と「担い手の確保」が最優先と誰かが認識しているところですが、「牛の確保」は、効率的な繁殖計画（雌雄判別精液や交雑種生産、和牛受精卵の活用）で後継牛を自家生産

するの、素牛を購入するの、判断が分かれるところです。また、育成率向上等損耗防止の改善に、HACCPの取り組みによる飼養衛生管理を見直すのか、新たな生産基盤投資をするのか迷います。いずれにしろ、経営にあった効果的な収益率の高い安定した経営の構築のため、「畜産クラスター事業」や「後継牛確保プランニング事業」を検討し、バランス良い経営体制を構築したいものです。

本県はこれらの事業を推進し支援しております。「後継者不足」は、ある意味人災であります。3Kと言われる畜産現場に我が子でさえ後継者になって欲しくない風潮があり、また時の指導者たちも口を揃えて「厳しい情勢の中で」を挨拶の枕詞にしています。将来を悲観的に捉えるのではなく、儲かる自由経営と畜産物を購入する消費者の笑顔（喜ぶ消費者を見る）の素晴らしさを感じることに

で、人をつなぎとめたものです。年々、国（県）内の生産量が減っているということは、消費者は安全安心なおいしい地元産を食することができなくなり、国外産に頼るしかないということでは、是非、地域連携の中、このハードルを越え、官民ともに生産技術の向上のための対策を講じ、知恵を絞りたいと思います。（湘南家畜保健衛生所・井澤 清）